



横浜さかえ内科通信

血管迷走性失神とは

失神とは、脳の血流が何らかの原因で一時的に低下しておこる意識消失のことです。失神の原因として血管迷走神経性失神が最も多く、全体の30〜50%程度です。学校の朝礼などで気分が悪くなって倒れる場合や、採血など強い緊張を受けた後に失神してしまう場合などがこの病気に該当します。女性にやや多く、幅広い年齢層で見られ、長時間の立位や水分不足時に発症しやすく、胸部不快感、吐き気、発汗などの前ぶれを伴うことが多いといわれます。また、痛み、ストレス、睡眠不足、疲労、飲酒、脱水や薬剤などが誘因とな

ると言われています。

血管迷走性失神の診断

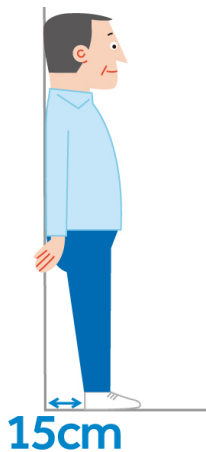
失神の状況より診断されることも多いですが、診断確定や原因不明の場合にはチルト試験が有用です。チルト試験では、患者さんに検査台の上に横になってもらい、検査台を立てることで自律神経の働きを検査します。横になった状態から立った場合、血液は重力に従って足の方に移動します。しかし、自律神経の作用で足の血管が収縮し、脈も速くなることにより、脳への血流は減少せず通常は失神しません。しかし、自律神経異常がある場合には、血圧・脈拍の調節がうまくいかず、脳への血液が

減少し、失神します。

血管迷走性失神の治療・予防

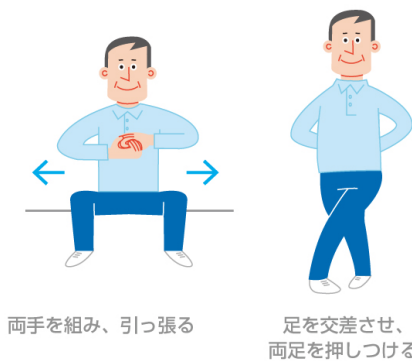
失神の予防には生活指導、誘因の除去、前ぶれの出現時の失神回避法やチルト訓練(次図)が重要です。

これは図のような姿勢を気分が悪くならない限り30分を目標に継続します。



命にかかわる病気でないことを理解してもらい、前ぶれを感じた際は、その場でしゃがんだり横になることで回避できます。また、立位のまま足を交差させる、両腕を組んで引っ張り合うなどの動

作や等尺性運動によって失神を回避できます(次図)。それでも無効な場合は薬物治療やペースメーカー治療を行います。自然治癒もあり予後良好の病気ですが、中には失神に伴い怪我や事故を生じることがあります。



両手を組み、引っ張る

足を交差させ、両足を押しつける

横浜さかえ内科

診療時間 月火水木金土日祝

9:00~13:00 ●●●● / ●○ /

15:00~19:00 ●●●● / ● / /

受付開始・終了は15分前 ○土曜日は9:00~14:00

JR本郷台駅徒歩3分

栄区小宮ケ谷1丁目15-2 長嶋本郷台マンション2F

TEL.045-897-5515